



表紙 仏花
石川 真樹 [茨城1組 福法寺]

花材 若松、菊、小菊、
カサブランカ、千両、赤目柳、
ドラセナ類



Shinran
500th

—〈2023年 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年 慶讃テーマ〉—

南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン

発行日 2022年1月1日

編集 教化委員会広報・出版部門

『ネットワークナイン』班 編集員
総編集長：本田 彰一（東京1）
チーフ：中村 晃（茨城1）
佐々木誠信（東京4） 朝倉 俊隆（東京5） 五島 大地（東京8） 小田 俊彦（茨城1） 大山 信敬（茨城2） 佐々木 萌（長野5）
チーフ：田上 翼（茨城1）
坂東 性悦（東京2） 平松 正宣（東京3） 櫻田 純（東京6） 秦 顕生（湘南） 和田 祐樹（三浦）
チーフ：田宮 真人（東京8）
土岐 孝広（東京1） 内藤 友樹（東京1） 渡邊 尚康（東京3） 相馬 法道（茨城1） 鞠川 卓史（湘南）

発行 真宗大谷派東京教区教化委員会
〒177-0032 練馬区谷原1-3-7東本願寺真宗会館
TEL. 03-5393-0810 FAX. 03-5393-0814 Email. nw9@ji-n.net
ご意見、ご感想は上記連絡先までお願いします。

もくじ

- 03 新年挨拶 藤田 哲史
宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業
東京教区500カ寺からつなぐ
- 04 慶讃法要お待ち受け大会 須賀 力
特集
- 07 お内仏のある生活
教区教化通信 総合調整総務会
- 14 教区報恩講 企画会だより 朝比奈 信昭
教区教化通信 青少年部門
2020年度 第5回青年学習会
- 16 2021年度 第1回青年学習会 平松 正宣
- 18 法語ポスター
教区教化通信 教学館
- 19 私の出遇った言葉 小笠原 翔
はい！こちら真宗会館です
- 20 駐在日記 渡邊 誉
はい！こちら真宗会館です
- 21 所員のつぶやき 寺澤 杏菜
- 23 敬弔・涌 大山 信敬





【慶讃テーマ】

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

新たな年を迎え、教区内の皆さまにおかれましては、ますますご清祥にて為法ご精進のこととお慶びを申し上げます。旧年中は、宗門護持並びに教区の運営・諸事業に対しまして格別のご理解とご協力をいただきましたことに対しまして、衷心より厚く御礼を申し上げます。

2年近くにわたり、猛威を振るつた新型コロナウイルス感染症は、現時点（2021年11月現在）では、新規感染者数も一時期に比べて激減し、社会の活動も徐々に回復傾向にあります。しかしながら、いつ再び感染拡大が起こらないとも限りませんので、今しばらくは感染防止に留意しながらお過ごしいただきたいと存じます。

さて、本年度の上半期には、2023年厳修の「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」に向けて、ようやくではありましたが、「慶讃法要の意義を学ぶ研修会」をオンラインで開催することができ、3名の方に慶讃テーマに込められた願いと慶讃法要に向けたご自身の姿勢についてお話をいただきました。今後、各組において慶讃テーマについて様々な取り組みが進められることが願われております。

また、本山慶讃法要への団体参拝の募集も

各組において取り組んでいただいております。コロナ禍の困難な状況ではありますが、多くの方に慶讃法要の勝縁にお会いいただきたく、積極的なご参加をお願い申し上げます。

下半期には、1月28日の「教区報恩講」を、「であいから問われて」のテーマのもと、YouTubeライブ配信でお勤めいたします。また、5年に一度の「全国一斉門徒戸数調査」・「教区割当指教調査」が2月1日現在で実施されます。ご承知のとおり、この調査結果は宗門護持金御依頼の割当基準の最重要要素として用いられるもので、内局から、今回の調査結果を十割使用した割当基準を策定するとの方針がすでに示されております。これまで以上に「公平性・公正性・透明性」が確保された調査となるよう、住職・坊守・門徒各位のご理解・ご協力を切にお願い申し上げます。

最後になりましたが、昨年9月23日に命終されました、但馬弘前宗務総長の「今やるべきことをやるという覚悟」との御遺訓を心に、宗務に取り組んでまいりたいと存じます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

Shinran
500th

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

—(2023年 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年 慶讃テーマ)—

東京教区500カ寺からつながる

オンラインお待ち受け大会



教区慶讃事業企画運営委員・

お待ち受け・法要部会主査

須賀力(東京5組 道教寺)

この度、2022年6月13日(月)に「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要 東京教区お待ち受け大会(以下、「大会」)を開催することになりました。お待ち受け・法要部会では「大会」を開催するにあたり、現在、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を予見できないことから、従前のように一堂に会する形式ではなくYouTubeとZOOMを併用したオンライン配信により行う予定であります。

既に関東教区内では、オンラインを使っての会議や研修会・同朋のつどい等をはじめとし、寺院によっては法事・報恩講等もお勤めするなど様々な試みにより、いままです寺院に伺うことが困難な方の参加も望めるようになってまいりました。

また、1月28日開催の東京教区報恩講においてはYouTubeでライブ配信を行うなど、真宗会館をはじめ東京教区内の御寺院でも着々と環境を整備し始めてきています。

当初、部会内での企画ではYouTube配信を行い「500カ寺をつなぐオンライン配信」をと企画を進めてきました。委員のなかからは御寺院だけを繋ぐ大会でいいのだろうかという疑問が生じ、検討を重ねてまいりました。御講師の池田勇諦先生はオンライン配信の時も御自坊に御門徒を招き、一方通行ではないお話をされてこられたことをお聞きし、ZOOMを併用しての双方配信を検討しております。このことは「500カ寺をつなぐ」という限定されたところから、さらに広がりを持たせた「500カ寺からつながる」という願いを込めているものであり、教区内寺院をはじめとして世界中の御同朋の場の広がりを願うものであります。

また、休憩中には各組の同朋大会や研修会などの活動状況のスライドを流すため、写真・画像の提供を現在各組長にご依頼させていただいております。このスライドは大会終

了後も閲覧できるようにと考えております。
当日は、「東本願寺真宗会館」講堂から大谷暢裕門首をはじめ内局の御挨拶をいただき、三重県桑名市西恩寺から池田勇諦先生の御法話の配信を行います。

今後の慶讃事業予定

・教区お待ち受け大会

—東京教区500カ寺からつながる—

オンラインお待ち受け大会

【期 日】2022年6月13日(月)

13時30分〜

【開催方法】ZOOM・YouTubeでの

ライブ配信

【講師】池田 勇諦 氏

三重県桑名市 西恩寺 前住職

真宗大谷派学階「講師」

同朋大学名誉教授

※内容につきましては、あらかじめご案内いたします。

各御寺院におかれましては、オンライン環境の整備をはじめとして、広く御門徒に案内を拡散していただき、つとう「大会」を実現いたしましょう。おひとりでも多くの方のご視聴を願っております。

池田勇諦氏の「法話

講題：「慶喜奉讃に起つ」

【於：真宗本廟お待ち受け大会・

本廟創立七百五十年記念大会】

(2021年4月5日)



みんなで付けよう!!

「慶讃バンド」

輪袈裟、畳袈裟、坊守章、肩衣に付けて慶讃法要を盛り上げよう!



「慶讃バンド」のPDFデータは東京教区ホームページよりダウンロードできます。どうぞご活用ください。



より一層の周知に資するため、慶讃バンドや着用している写真等を、「#慶讃バンド」を付けてSNSへ投稿をお願いいたします。

「慶讃法要・慶讃テーマ」のポスターが

東京教区ホームページ「暮らしにじいーん」から

ダウンロードできます!!

真宗大谷派（京都・東本願寺）

2023年 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要

テーマ

『南無阿弥陀仏』

人と生まれたことの意味を

たずねていこう

法要期間

〔第一期法要〕2023年3月25日～4月8日
 〔讃仰期間〕2023年4月9日～4月14日
 〔第二期法要〕2023年4月15日～4月29日



↑テーマの趣旨・願いについてはこちらをご覧ください。

The 850th Celebration of Shinran Shōnin's Birth and the 800th Anniversary of the Establishment of Jōdo Shinshū

Theme

Namu Amida Butsu
To Discover the Meaning of Being Born as Human Beings

東京教区で作成しました「慶讃法要・慶讃テーマ」のポスターが東京教区ホームページ「暮らしにじいーん」からダウンロードできます。ダウンロードしていただければ、ご寺院、ご自宅のプリンターでお好みのサイズに印刷できます。縦長サイズですの
で、掲示板のちよっとしたスペースに掲示いただくなど、ぜひご活用ください。



特集

お内仏ないぶつ

のある

生活

手を合わせる場所

それはお内仏

手を合わせて

阿弥陀さまと

向き合う場所

自分と

向き合う場所

「お仏壇」と聞いた時、みなさんは何を思いますか。

あるお仏壇に関する調査によると、「住まいにお仏壇が必要だ」と回答した方が3割弱でした。また、お仏壇の役割について質問をした別の調査によると、「故人の魂を慰めるため」が6割、「故人と対話するため」が5割だったと聞きました。真宗におけるお内仏の意義が失われ、さらにお参りする姿さえも消えつつあることを示しているようです。

そこで今回の特集は「お内仏(お仏壇)」を取り上げます。真宗では家庭内の持仏じぶつということで、お仏壇と呼ぶのではなく「お内仏」と称します。お内仏をお迎えしたお宅は、家が居住する場という意味を超えて、ご本尊と向き合うことで自らを振り返り、共に念仏しながら仏法聴聞の生活をする仏教の道場であるといえます。

「お内仏」に関する知識を誰から聞いたのかという調査では、半数が親と答え、若年層では祖父母という回答も多いことから、真宗門徒の信仰の原風景はそういった家族との実生活から伝わるといえます。しかし、多世代が共に暮らす世帯は減り、お内仏の意義が伝わりにくいというのが現状です。その現状をふまえ、記事を作るにあたり、私たちも「お内仏」について学び、考えてまいりたいと思います。

お内仏とは

真宗門徒は、ご本尊「阿弥陀如来」を安置した仏壇を「お内仏」と言い習わしてきました。

—お仏壇とお内仏—

一般にお仏壇を先祖の供養、先祖への感謝、あるいは家のなかに災いがないようにと祈願するために安置する「先祖壇」として安置している方が多いのではないのでしょうか。もともとのお仏壇は、本尊をお掛けしてお参りをするとところから出発します。ご本尊をお



あるご家庭のお内仏

掛けする場所が定着し床の間が生まれ、そして仏間ができました。

浄土真宗ではお仏壇をお内仏と言い習わしてきました。古来、宮中には「内道場」といわれるものがあり、貴族などは「持仏堂」をもっていました。それが一般家庭でもたれるようになった時に家庭内の持仏堂が「お内仏」となりました。

このように浄土真宗のお内仏（お仏壇）では、外側の箱でなく内に安置するご本尊に重きがおかれます。ですから「お内仏」といわれます。お念仏の教えをいただかれました先輩方は、ご本尊（阿弥陀如来）の前で、抛り所を確かめ、自身の生き方を見直す場とし「お内仏」を大切にしてくださいました。お内仏はあくまでもご本尊が中心で、決してご先祖をお祀りする先祖壇ではありません。

—お内仏とは—

お内仏とは、姿・形を超えた阿弥陀如来という真実とそのはたらきを、目に見える形であらわしたものであり、そこには私たちの聞法・礼拝の場が開かれているのです。そのよ

うな真宗独自の意味、または宗風が生活の営みとしてあるから、「お内仏」と表現されています。お内仏の前で「正信偈」を朝夕お勤めし、お聖教から言葉を頂くことから、本当に尊いこととは何かを日々の中で確認していくのです。

前述したとおり、お内仏は亡くなられた方を祀る場所ではありませんので、身近に亡くなられた方がいらつしやなくても、お内仏をお迎えすることをお勧めいたします。現代社会において、日々の生活の中で手を合わせご本尊に向かいあう時間が大切であるように思います。



お内仏はお浄土の世界を表しています

ご本尊とは

真宗のご本尊は阿弥陀如来です。尊形としての阿弥陀如来像、名号としての「南無阿弥陀仏」です。お内仏の中央には阿弥陀如来の絵像または木像が安置され、日々の生活の中で自らのあり方を問い直す場として大切にされています。

—阿弥陀如来—

「阿弥陀」とは、インドの言葉を音写したもので、「アミターユス」（無量のいのち）、「アミターバ」（無量の光）のふたつの意味があります。私たち人間はいつも自分の都合や損得で世の中のことを量ろうとしますが、そんな私たちの価値観では量りきれない「いのち」を生きているのが現実です。量りきれない「いのち」を自分の価値観に押しはめて、かえって自分を縛り付けているのが私たちの苦悩なのではないでしょうか。そんな人間の知識や価値観では量ることも考えること

もかなわない仏の智慧のお姿が阿弥陀如来であり、いつでも、どこでも、どんな人も、もろさず救いたいという阿弥陀如来の「はたらかき」をかたちどったのが、木像や絵像のお姿です。

—南無阿弥陀仏(お念仏)とは—

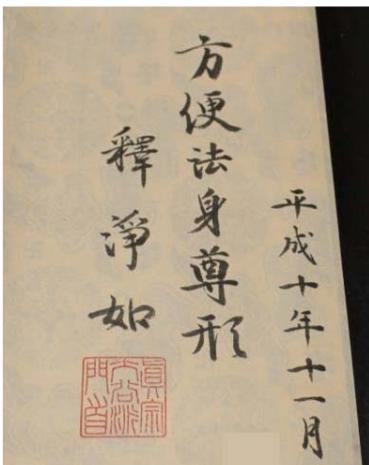
ご本尊の前で、「南無阿弥陀仏」とお念仏を称え、合掌・礼拝するのは、願いごとをしたり、亡き人の慰霊鎮魂のためではありません。お念仏は、自らと向き合うことであって決して自分の思いを満たすための手段ではないのです。

「南無阿弥陀仏」とは、阿弥陀如来(私に内在するいのち)からの、私たちへの呼びかけです。欲望や価値観に振り回され、自らを苦しめていることを気付かせようとする阿弥陀如来の本願からの呼び声は「本当に尊いことに気付き、本来に立ち返って生きていってほしい」という阿弥陀如来からのメッセージに他ありません。

—方便法身の尊形—

本山からお受けする阿弥陀如来の絵像の裏には「方便法身尊形」と裏書きがされています。この「方便」とは、慣用句として「ウソも方便」と使われますが、本来仏教では「接近する」「到達」という意味があります。色も形もない、いのちからの呼びかけに阿弥陀如来の本願を、私たちに近付ける形として阿弥陀如来の絵像や木像のお姿となっております。

本尊の裏書に記されているのは、本尊が単なる礼拝の対象としてのもではなく、この私にはたつき続けている法(道理)をかたどっているということです。



本山からお受けする
ご本尊の裏書き

莊嚴とは

お内仏の莊嚴は、阿弥陀如来の願いによってひらかれたお浄土の世界を表現しています。本来は姿・形に表すことができないはたらきですが、その形を超えた阿弥陀如来とこの世界を、私たちに見えるようあらわしたものがお内仏の莊嚴です。それは単に礼拝の対象ではなく、私たちが家庭において仏法を聴聞する場です。ですから、お内仏のお給仕をするということは、ただ単にきらびやかにかざるのではなく、そのことをとおして、阿弥陀如来のおこころにふれていくという意味があります。

―家庭にお内仏を―

近年の住宅事情や生活様式の変化によって仏壇の小型化やデザインを重視した造りなどの仏壇に替えるご家庭も出てきました。その際、莊嚴をしなくてもいいのか、最低限どのような仏具が必要なのかとの声を聞きます。

今回は、さまざまな事情でお仏壇としてお内仏を安置することが難しい場合であっても、小型な「三折御本尊」(写真1)や「額装御本尊」(写真2)ならご家庭でお内仏を安置することもできます。その際にこれだけは莊嚴してほしいと願う仏具について説明いたします。

―仏具の備え方―

今回の莊嚴の場合、まず必要となってくる仏具は金香炉、土香炉、鶴亀(燭台)、花瓶です。

ご本尊を中心に安置し、その前に金香炉を置きます。金香炉は焼香用の香炉で平常は用いず、法要の際などに用います。(写真3)

次に金香炉の前に土香炉を置きます。陶製の香炉で、お勤めの前の燃香に用います。線香は香炉に入るよう適当な長さに折り、火をつけた方を左にして灰の上に横にして焚きまします。(写真4)

ご本尊に向かって右に鶴亀(燭台)です。平常は木蠟という朱色の木製のろうそくを立てます。(写真5)

ご本尊に向かって左には花瓶です。四季折々の木花草花などをとりまぜて挿します。造花は用いませぬ。(写真6)

最後にお勤めの際に打つ鈴、鈴台、鈴撥です。ご本尊の前でお勤めをして、自らの姿や生きる方向を確かめましょう。なお、お勤め以外で鈴は打つ必要はありません。(写真7)

ご本尊のある生活とは、「私たちが本当に大切にすべき尊いこと何か」と、いつも問いかけをいたたく場を賜るといことです。生活の中心にご本尊を安置し莊嚴していくことを通して、教えをいただき続けることが私たち真宗門徒に願われていることではないでしょうか。



写真1 三折御本尊



写真4 土香炉



写真3 金香炉



写真7 りん、りんだい、りんぼち



写真6 かひん 花瓶



写真5 つるかめ しょうだい 鶴亀 (燭台)

三折御本尊と仏具をお荘厳した様子



写真2 がくそう ごほんぞん 額装御本尊

法名軸・過去帳

お亡くなりになった方の名前を記す手段として、位牌をイメージされる方が多くおられ、法名軸・過去帳と聞いてもピンとこないのではないかと思います。

—お位牌とは—

お位牌とは、字のごとく位の牌（たぶ）を指しており、昔の中国から伝わってきたもので、亡き方の生前の官位姓名を表したものです。

基本的に真宗大谷派では、お位牌は用いませんが、地域によっては、通夜、葬儀のみ白木の位牌を用いることがあります。

お内仏（お仏壇）は本堂のお内陣を表しており、本堂のお内陣はお浄土を表しておりますから、お内仏もお浄土を表しております。このお浄土は阿弥陀如来の願われた、全ての人々が分け隔てなく、ひとしく救われる世界でありますので、位を表すお位牌を用いることをせずに、法名軸・過去帳を用いるのです。

—法名軸・過去帳とは何か—

法名軸とは、亡き方の法名、御命日を記した掛け軸であり、お内仏の内側の左右の側面に掛けていただきます。また一人一紙、二人一紙や先祖の方々をまとめて記すことができます。ものがあります。



法名軸

過去帳とは、折本式で日付ごと（日付の記載が無い物もあります）に亡き方の法名、御命日、俗名、亡くなった年齢や家族の関係（〇〇の父など）を記し、お内仏の前に過去帳台を置きその上に置いていただきます。そして、毎日のお給仕の際に、日めくりカレンダーのようにページを捲っていただきます。



過去帳

—亡き人を縁として—

みなさんはお内仏の前で、何を思い手を合ませますか？亡くなられた方のことを想うという方も多いことでしょう。前述したとおり、浄土真宗では「位牌」ではなく「法名軸」や「過去帳」をお勧めします。

私たちはお内仏を通して、阿弥陀如来のいのちの世界に目覚め、亡き人も阿弥陀如来のいのちの世界に還（かえ）られた諸仏（しよぶつ）としていただいでいくのです。位牌をお内仏に置くことは、この要（かなめ）の部分を見失わせ、いつしかお内仏が先祖供養の壇にもなりかねません。

亡き人のご命日には、あらためて「釈〇〇」と書かれた法名軸や過去帳をあおぎ見、亡き人を偲ぶとともに、「死」をもって我々に教えてくださる「生」の大切さを見つめ直す「命の日」にしたいものです。

地域やこれまで代々と引継がれてきた家庭の事情等がありますので、必ずこの通りにしなければならぬということではありませんので、お手次のご住職とご相談ください。

最後に…

お内仏についての特集記事を組むにあたり、思い出した言葉があります。それは私が以前所属していた同朋会館の嘱託補導として、北陸のとある奉仕団を担当した時のこと。その時にふと門徒のおばあさんがおっしゃっていた言葉です。そのおばあさんはこう言っておられました。

「お内仏が無い家は、
獣の住む家なんだ」

「獣」とは、お腹が空いたら狩りをして腹を満たし、邪魔なものがいれば排除し、追い出す。自分の、もしくは自分の利となる者たちで集まりを持つ。また、辞書を引くと、「人間の持つている信義、情け、理性などが無い生き物の意」とあります。

私はふとしたことで周りが見えなくなり、感情的になって人を非難してしまいます。おそらく感情を持つものならずすべての人が思い

当たることかと思われます。

だからこそお寺であれば本堂において、家庭であればお内仏の前において、私たちが日々の生活の中で見失う、「人間性の回復」が必要なのでしょう。それこそが本尊、そしてなにより亡き人から願われていることではないでしょうか。

物事が自分の思い通りに進まなかったなどの折に、ふと私の中の獣が現れます。一日過ごしていても、腹が立つことの方が多い私だからこそ、本尊を前にした朝夕のお勤めを通し、私を回復させる必要があるのです。そうでなければ、何の問題意識も持たず、世の中や周りに対し不平不満をばらまき続ける日々を送ることになりかねません。

言いたいことも言えないこんな世の中だからこそ、またコロナ禍により日常が非日常となり、不安や不満が尽きない今だからこそ、薄れていく、忘れていく人間性を回復させる場所が必要なのではないでしょうか。

ご寺院には、お内仏をこれからお迎えされる方、またすでにお迎えいただいている方々に今回の特集記事をお渡しいただき、大切なお縁となることを願います。コピーしてご活用ください。

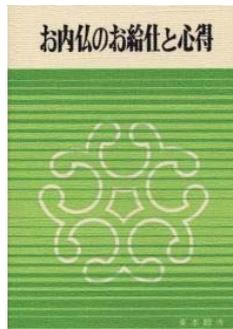
— 参考書籍 —

真宗の仏事—お内仏のある生活—



550円 (税込)

浄土真宗 仏教・仏事のハテナ?



660円 (税込)

お内仏のお給仕と心得



550円 (税込)

※今回の特集では以上の本を参考にさせていただきました。

教区教化通信 総合調整総務会

教区報恩講 企画会だより

教区報恩講企画会 実行委員 朝比奈 信昭（群馬組 専精寺）

2022年 教区報恩講 テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」

サブテーマ「であいから問われて」



まもなく、2022年の教区報恩講をお迎えする。真宗会館講堂にて多くの参拝者とともに厳修された2020年の教区報恩講から2年が経とうとしている。雪が降るほどの寒さにもまれながら、ボランティアパートナーの方々が振舞ってくださるチャイで体を温め、東京教区各地から来られた参拝者を「ようこそ」と出迎える。再びここで「同朋にであえた」喜びと、館内の窓を曇らせるほどの溢れ

る熱気を感じ、私の心も熱くなった。たった2年前のそんな光景をとっても久しく感じている。

そして、昨年はオンライン配信により教区報恩講が厳修された。企画会メンバー、宗務役員が一から動画配信を学び、どのようにしたら「であえない」中で「であう」を伝えられるのか。チラシの表現、配信の音声、さまざまなことに想いを巡らせながら会議を重ね、滞りなく配信をすることができた。参拝できなかった身としては、配信に尽力いただいた企画会メンバーと宗務役員の皆様、そして今までにない環境下でご法話をしてくださった海先生には感謝しかない。また、自宅に居ながら法要に参拝でき、リアルタイムで法話を聞ける有難さを感じつつも、どこか「寂しさ」

や「このままでいいのか」と不安を感じた方も多かったのではないだろうか。私もその一人である。

しかし、この状況下において「不安」だけを感じているのはもったいないとも思っている。中興の祖と言われる蓮如上人は、直接であえなくとも人々に念仏を手渡すために200通を超える「御文」を書かれた。御文を受け取った方々は、「教えにであい」、その感動から涙と笑顔が溢れただろう。私たちも悩みながらも歩みを止めてはならないのだ。オンライン配信を蓮如上人の御教化になぞらえることは大変おがましいことかもしれないが、広く多くの方に念仏の教えを伝えたいという精神に再びであうことができ嬉しく思っている。

それと同時に、いま私たちはこれまで「何にであってきたのか」を問われているのだろう。それはこの報恩講を通じて、人に「教えに・私に」「であい直せ」と呼び掛けていただいているようにも感じている。一期3年の企画会任期の最終年が、このような形でお迎えできるとは予想もしなかったが、今年もまた私にとって「であい」に溢れる大切な報恩講になりそうである。

主催：真宗大谷派 東京教区

#今年もオンラインで報恩講

東京教区

報 恩 講

～であいから問われて～

YouTube でライブ配信！

パソコンや
スマート
フォンから
お参り下さい

南無阿弥陀仏
人と生まれたことの
意味をたずねていこう

2022年 1月28日 金

- 13:20 配信開始
- 13:30 開会(真宗宗歌)
- 13:40 勤行
- 14:30 感話(加藤 元氏/東京7組順正寺)
- 14:40 法話(海 法龍氏/三浦組長願寺)
- 16:00 閉会(恩徳讃)

暮らしにじいん 報恩講

東京教区報恩講
オンライン特設ページは
こちらをご覧ください

http://www.ji-n.net/

今年度も東京教区報恩講はインターネット(YouTube)にてライブ配信を行います。念珠を準備していただき、ご聴聞下さい。真宗会館に参詣していただくことはできません。

真宗大谷派東本願寺 真宗会館(東京教務所) TEL/03-5393-0810 FAX/03-5393-0814
〒177-0032 東京都練馬区谷原1-3-7 mail/tokyo@higashihonganji.or.jp HP/http://www.ji-n.net/

※教区報恩講は、例年1月26日の帰敬式、27日、28日の一昼夜にて厳修してまいりました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、昨年度同様にオンラインにて厳修することが決定いたしました。

お寺に集まっても東京教区報恩講を
一緒にお勤めしませんか

上記チラシの通り、2022年の東京教区報恩講は「YouTubeライブ」による配信を行います。オンライン配信ということ、どこからでも東京教区報恩講にお参りすることができます。しかしながら、パソコンやスマホ、タブレットをお持ちでない方、また不慣れな方は参加することが難しいということもあります。そこでお寺などを会場として集まっていたら、スクリーンやテレビなどのモニターに映像を映して、皆さんと一緒に東京教区報恩講をお勤めしてはいかがでしょう。これまで東京教区報恩講に参詣できなかった方が参加できるチャンスですし、また法話終了後に座談会や茶話会を行ってもいいかもしれません。どうぞ皆さんの発想で新しい取り組みが生まれることを願っています。

※お寺などに集まる場合は、お手次の寺院・教会の住職と相談の上「3密」を避け、感染症拡大防止への取り組みをお願い致します。

教区教化通信 青少年部門

青年学習会 報告

青少年部門委員 平松 正宣（東京3組 教元寺）

2020年度 第5回青年学習会

6月30日(水)に、2020年度の第5回青年学習会(内部研修)を行いました。2021年は、東日本大震災および福島第一原子力発電所事故の発生から10年という節目です。そこで後述する2021年度第1回青年学習会の事前学習として、仙台教区の原町別院(福島県南相馬市)、東日本大震災・原子力災害伝承館(福島県双葉郡双葉町)、東京電力廃炉資料館(福島県双葉郡富岡町)を訪ねました。

原町別院では、列座の木ノ下秀俊氏より震災発生から原発事故発生までの状況、その後の除染の様子についてお話を伺い、放射線測定の様子を実演していただきました。また、別院の敷地内にある現地復興支援センターを見学しました。

東日本大震災・原子力災害伝承館では、地



放射線測定の様子を実演する木ノ下秀俊氏
(原町別院にて)

震による津波の発生から原発事故が起こり、その後、現在に至るまでの状況に関する展示や映像を見学しました。

また、東京電力廃炉資料館では、原子力発電所の仕組みや、原発事故に至る経緯、廃炉作業に関しての展示や映像を見学しました。



東日本大震災・原子力災害伝承館
(福島県双葉郡双葉町)

今回の学習会で、震災・原発事故から10年経った被災地の現状を再確認することができました。除染が終わった地域から人が戻ることができるようになったそうですが、原発の廃炉作業は途中であり、まだ被災地に帰還困難区域が存在しているなど、原発事故からの復興が未だに終わっていないという現実を改めて感じました。

2021年度 第1回青年学習会

テーマ 「一人と出会う」とは
『東日本大震災を縁として』

講師 木村敏氏

(仙台教区 仙南組 寶林寺住職)

11月2日(火)に、2021年度の第1回青年学習会を行いました。本来、2020年度の第5回学習会として計画していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言発令により、今年度の開催へ変更しました。また、今年度の学習会として8月中の開催と改めましたが、再度の緊急事態宣言発令のために、さらに延期して、11月の開催に至りました。

先に述べたように、今年は東日本大震災発生から10年が経っています。震災を通して何を学ぶのかを改めて考えていくために、震災発生時、宮城県の名取市役所職員であった木村敏氏をお招きして、当時の体験をお話しいただきました。

木村氏は、生活環境を担当するクリーン対策課の課長でした。課の業務として、廃棄物の処理や市営の斎場の運営を担っていました。が、震災が発生したことで、亡くなられた方

の遺体の安置や埋葬、ガレキの撤去に関して、最前線で職務にあたることになりました。

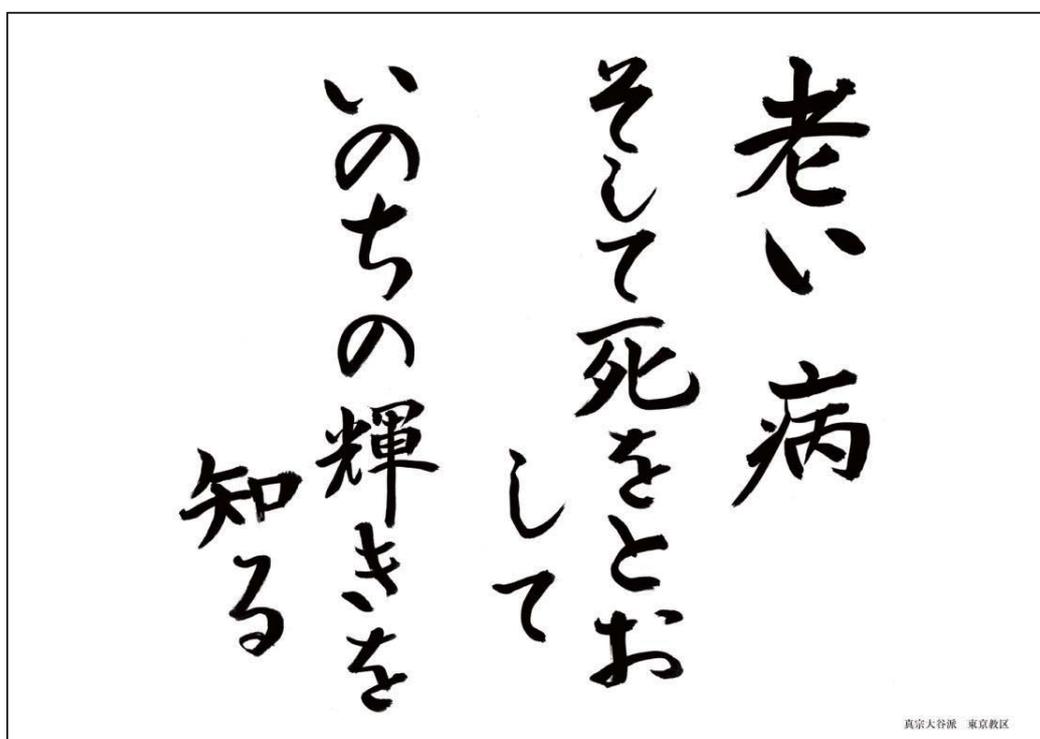
震災発生直後から市の体育館に遺体安置所の設営準備をして、翌朝から受け入れを開始しましたが、日に日に遺体の数が増え、市内にある閉鎖したボウリング場も安置所として使用したこと、また遺体を収める棺が市内の葬儀社だけでは足りなかったため、隣接する仙台市内の卸業者に掛け合って確保したそうです。身元が判明した遺体を火葬する際、斎場も被災していたため早急に復旧させたこと、遺体の数が多すぎたことから、「仮埋葬(土葬)もやむなし」という国からの通達もありましたが、山形県内の自治体や東京都の支援もあり、名取市では全ての遺体を火葬することができました。さらに、被災した寺院の墓石の片付けでは、本来ならば「政教分離」の原則から外れてしまうところを、「市民の安全確保のためにガレキを撤去する」という名目で、市の事業として行ったことをお話しいただきました。最後に、僧侶は人の死に接する機会が多いことから、遺族に寄り添い、亡くなった方を悼む「弔う」という心が大切であり、その思いは遺族の「癒し」につながるということをお話されました。



当時の体験を語る木村敏氏

木村氏のお話を拝聴して、メディアで報道された震災の情報はあくまでも表面的なものであると思うとともに、実際に多くの死者に向き合った経験から発せられた言葉の重みを感じました。また、一般的に「葬式仏教」という言葉がしばしば否定的に使われていますが、人の気持ちに寄り添う「弔う」という儀式としての葬儀の場は、亡くなった方や遺族と向き合う際に、大切であることを改めて感じる事ができました。

今月の法語



書：佐藤 多仙

- ・頒布中「掲示伝道用ポスター」(A2 サイズ)
「掲示伝道ポスターミニ」(ポストカードサイズ)
- ・「掲示伝道用ポスター」が貼れる門徒宅用掲示板を無償設置いたします。
詳細は東京教務所まで。

私が出遇った言葉

東京8組 源通寺 小笠原 翔



因果論は自由論

教学館研修員として数回書かせて頂いた

『ネットワーク9』への寄稿もいよいよ最後である。西田先生の目の具合により基調講義の内容が変更され、今まで以上にお話に付いていくことで精一杯になっているが、今回の講義で思ったことを書かせて頂くと思う。

今回は、西田先生の著作集にある『善悪因果論の問題性についての序論』を資料として開催された。物事の因果関係を考えるとき、〈事実の次元から価値の次元にとんで〉いくことで事実ということが置いていかれ、事実とは異なることとして認識されていく。善悪というこの因果関係で見るとき、過去にあった事実ではなく、前世や過去世での行いを出して、その報いとして現在の姿があるのだと結び付けていくことを思うと、人間の発想

というものは複雑である。

少し前に「親ガチャ」という言葉があることを知った。親ガチャとは「子どもは親を選ぶことができない」という意味で、現在の境遇が悪く思えば「親ガチャにハズれた」となるようだ。それはお互い様だろうとも思うが、〈真宗では中略自己以外は縁〉としていたが、縁との和合によって果としての自己が現成するのである」ということを通してみれば、親と私の本当の関係性が見えないということであり、また、その関係性の只中に立たされる自分という視点が持てないということであるように思う。おかしい言い方かもしれないが、自分のことをどこかひと事のように思うところにこのような表現が生まれてくるのかもしれない。どんなことでも

論点がズレれば話はあらぬ方向へと進んでいくが、別の次元としてあることを、意識的または無意識のところで置き換えることで本当の関係性がどんどん見えなくなっていくことを改めて教えられるような気がする。自分の外に原因を持つてくることはよくしてしまふ。しかし、真宗の世界に生きるということは〈信心の範疇においては因果論は自由論〉なのであり、〈故にその孤独たるや壮絶なものである〉と言われるように、大変な歩みではあるけれど、だからこそ関係性の中で育てていただいているという「まなこ」を開かれることが大事なことであり、それが私自身の歩みを推し進めるのだから。

第27回 教学館月例研修会(オンライン開催)

2021年11月10日～11日

基調講義：真宗社会論序説／善悪因果論の問

題性についての序論

西田 眞因 氏 (元教学研究所有長)

特別講義…なし

はい！こちら真宗会館です

駐	在
日	記



最近観た映画：『女は二度生まれる』
1961年 川島雄三監督

東京教区駐在教導
渡邊 誉

海外旅行を経験したのはこれまで一度だけである。行先はアラスカ州チェナホットスプリングという鉱山者たちの湯治場として1905年頃からその名を広く知られるようになった温泉地だ。1997年3月、オーロラ（アラスカではオーロラとは言わずノーザンライツと言う）の下でオカリナを聴くという幻想的な夜を毎晩過ごした。音楽家のオマタタツロウさんと写真家の柳木昭信さん、そして二人のファンの方々に構成された10人くらいのツアーだった。数カ月前にオマタさんとは手次の寺で開かれた音楽会で知り合い、その時にアラスカ旅行に誘われて実現した。成田空港からシアトルを経由し、アンカレッジへ。さらにフェアバ

ンクスまで飛び、チェナホットスプリングまでは大型のワゴンでハイウェイをひたすら入った。アラスカの気温は外気で最高気温-10℃。最低気温は深夜から明け方で-50℃、ツアーガイドからは「深呼吸や激しい動作をする時は気を付けるように」と注意された。昼は毎日、共同の温泉に入った。男女混浴で必ず水着着用であった。屋内のプールや屋外にあるジャグジーにも入った。このジャグジーでは髪の毛が凍り、まつ毛まで凍った。1997年はハールボップ彗星が地球に最も接近した年でアラスカではどこにいても肉眼ではっきり見ることが出来た。

2回目の海外旅行が叶えば今度は北
欧からオーロラを見てみたい。

はい！こちら真宗会館です



東京宗務出張所
書記補
寺澤 杏菜



担当：教化広報企画部門

好きなことは寝ること、食べること。特にラーメンが好きです。最近東京の楽しみ方がわかってきました。B' z も好きです。

今年の7月より東京宗務出張所に書記補として配属されました、寺澤杏菜と申します。業務内容といたしましては、都心部で一般の方向けに開催される親鸞講座などの事務や、お悩みを相談できるココロ・ダイアルの事務方を担当させていただいています。配属されてから数カ月が経ち、ぼちぼち業務にも慣れてきました。先輩方にも恵まれ、楽しく東京での生活を過ごしています。

ある日、ふと駅のホームや街を歩く人たちを見てみると大人たちばかりで、当然のことになぜかびっくりしたことがあります。社会人になってから半年が経ち、「責任」が伴われることをひしひしと感じていますが、この人たちはみんなそれを受け入れてきた大人たちなんだ、すごいなあ。今までバイトをしていても、他人事としてしか意識してこなかった責任が、社会人になるといつでもどこでも自分について回るので、ぬくぬくしてはられないな、

と気が引き締まる思いです。社会人は主体的に動かなければならないし、自分の責任で動かなければならないし、いつまでにこれをしたいから、いついつまでにこれを決めておかなければならないし…。先を見据えて動かなければならないけれど、のらりくらりと生きてきた私にはこれらのスキルは、恥ずかしながらまだ身につけていないなあ実感しています。この20数年なにをしてきたのだと怒られそうですね。

とりあえず、まずはしっかりと先を見据えた行動をできるようになる、と目標を立てました。少しずつステップアップして、周りの大人たちに堂々と肩を並べることができるよう頑張っていきたいと思いますので、ご迷惑をかけることが多々あるかとは思いますが、何卒ご指導、ご鞭撻いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

このたび、東京教区の「掲示伝道ポスター」作成にあたり、広く掲示用の言葉を募集いたします。

つきましては、教区の皆様に対し、普段の生活を通して心に残る言葉がございましたら、是非、ご紹介賜りたく募集いたします。

「掲示伝道ポスター」 言葉を大募集

言葉で迷い
言葉で傷つき
同時に言葉で
目覚める

募集要項

概要：応募いただいた言葉の中から東京教区教化委員会・広報出版部門で法語ポスターとして選定させていただきます。（選定されない場合があることをあらかじめご容赦願います）

募集：所定の用紙でFAX、郵送にてご応募ください

締切：2022年2月11日（金）

※ご不明な点は東京教務所 Tel.03-5393-0810
（担当：佐々木・大橋）まで

【新編集員のご報告】

新たに4名の方がネットワーク9の編集員となりました。

土岐 孝広 さん 東京1組 等光寺
小田 俊彦 さん 茨城1組 等覺寺
和田 祐樹 さん 三浦組 來福寺
佐々木 萌 さん 長野5組 正行寺

ネットワーク9ではより良い記事作りのために編集員を随時募集しております。

一緒にネットワーク9を作りませんか？

編集員募集中!!

Network 9

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン

取材、原稿執筆、校正、デザインなど、紙面作りに関するすべてを行います。お寺の新聞やチラシを作る時のスキルも学べるかもしれません。パソコン初心者の方でも大歓迎です。先輩編集員が丁寧にご指導します。一緒に楽しいネットワーク9を作っていきましょう。

興味がある方、お問合せは東京教務所（担当：佐々木）まで

敬弔

田澤 信行 様

東京2組 専念寺 住職

十一月十四日命終 69歳

下河邊 晴子 様

茨城1組 圓光寺 前坊守

十一月十七日命終 93歳

古川 由利子 様

東京8組 専了寺 坊守

十一月二十日命終 83歳

乾 和代 様

湘南組 養託寺 前坊守

十一月二十五日命終 89歳

生前のご功勞を偲び、
念仏合掌して哀悼の意を表します。

11月末日届出迄



先日とあるニュースを目にした。品川駅内でとある広告を目にした方々から批判が集まり、一日で掲示を終了したというニュースだ。ことの顛末は「今日の仕事は楽しみですか。」と書かれた広告が駅構内のディスプレイにズラーッと映し出されるといふ広告なのだが、その様子を広告主がSNSでつぶやいたところ、「理想の押し付けだ」「多くの人は楽しいから仕事をしているわけではない」「心が疲れている人を追い込みかねない」などの様々な批判が広告主に集まり、わずか一日で掲示が終了したというものだ。少なくともこういういった批判をされた方は、現実とは理想とは違い、日々の仕事に楽しさを感じず、心が疲れているのだろう。もしかしたら多くの方々がその思いを抱えながら、働いていらつしやるのかもしれない。むしろそれが当たり前になつて

いるのが現代なのだろう。その他にもブラック企業という言葉も最近耳にするようになってきたが、多くの方々が社会に対し世知辛さを感じているのだろう。我慢してでも今の職場で働く以外の選択肢など選べない辛さは、察するに余りある。「我、今、帰するところ無く、孤独にして同伴無し」(源信『往生要集』より)という言葉があるが、そんな世の中であつても共にいてくれる存在さえあれば、生きていけるのではないか。「頑張り」ではなく、「大丈夫?」と寄り添っていてくれる存在、ほつとできる場所が世の中を生きる上で何より必要なのではないかと感じた。今こそ仏法が寺が必要とされている。

(茨城2組 阿弥陀寺 大山 信敬)